

会議録

会議の名称	令和4年度 第3回坂戸市社会教育委員会議	
開催日時	令和5年1月12日(木) 開会：午後2時00分 閉会：午後3時15分	
開催場所	坂戸市役所 201会議室	
議長(委員長)	横田 政行	
出席者	北原 文子、向後 正隆、菅原 繁子、石橋 妙子、宮崎 準也、 中村 博、横田 恒雄、田中 映子、鹿ノ戸 久美子、 久保田 美穂、小川 孝、横田 政行 12名出席	
欠席者	金丸 行男、杉田 義昭、加藤 拓 3名欠席	
事務局	太田教育長、岡田次長兼社会教育課長、清水中央公民館長、 仲島スポーツ推進課長、菅野社会教育課副課長、 三塚社会教育課主事 6名出席	
会議次第	別紙のとおり	
配布資料	別紙のとおり	

議事の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
司会(事務局) 事務局	1 開会 本日1名の傍聴希望者がいる。入室を了承するか。
委員	了承。 (傍聴者入室)
委員長	2 あいさつ 皆さんあけましておめでとう。よろしくお願いする。 先週東京に卓球の試合で出かけた。今まででは、試合の度に個

	<p>人調書で連絡先等を出さないと試合に参加できなかつた。先週の大会は入り口で体温チェックしただけで試合ができた。試合も昔と同じように変わつてゐた。東京の大会の対応はウィズコロナになつてきつてゐると思つた。</p> <p>ただ、私の身の回りでも感染したという話を多く聞くので、注意しながらウィズコロナをする必要がある状況だと考える。</p> <p>今日は、懸案の子ども会関係について重要なものがあるので、活発な意見をもらい、良い結論を出したいと考えているのでよろしくお願ひする。</p>
教育長	<p>よろしくお願ひする。今週で就任から3週目。以前は坂戸市の小学校教員、管理職、教育委員会で長らく世話になつた。大変世話になつたので、恩返しができればと教育長を引き受けた。定年退職後は、女子栄養大学で学生とともに学ばせてもらつた。様々な経験を活かし、全力で取り組みたいと思うので、どうぞよろしくお願ひする。</p> <p>コロナの関係は委員長が言ったとおり。学校の陽性者は、数が上がってきつてゐる。しかし、ウィズコロナを考えながらやつていくのが一番良いと思う。</p> <p>なお、今日の協議の中心は青少年の健全育成だが、価値観の多様化、地域コミュニティの変化、コロナで、大変難しい状況にあり、何度も議論していると聞いてゐる。こういった状況では、先を見ながら、今できることをする中で、ベストなものを見つけていくことが大事だと思うので、委員の力を貸してほしい。よろしくお願ひする。</p>
事務局	3 資料の確認
(議長：委員長)	4 協議事項
事務局	<p>(1) 坂戸市及び近隣市の子ども会の状況について (資料に沿つて説明)</p> <p>浅羽野地区子ども会育成連絡協議会（以下浅子連）に対する聞き取り、富士見市に対する聞き取り、飯能市および越生町に対するアンケートの3種類の調査結果を報告する。</p> <p>浅子連については、トップを作らない運営であり、運営委員会が基本的な行事等の運営を行う。意欲的な運営委員が長く勤めていることが、浅子連の活動が活発な大きな要因でもある。浅子連は活動を通じて、横の繋がり、地域の繋がり</p>

	<p>りを作ることを目的としている。</p> <p>富士見市では、平成27年に市子ども会連合会（以下市子連）が休止。以降、市子連再結成や代替事業の要望はない。なお、単位子ども会への補助金事業を継続しており、補助金申請のある団体のみ把握している。その他、市民会議へ補助金交付、少年の主張大会開催や青少年推進員、青少年相談員によるイベントの開催などを行っている。</p> <p>飯能市は平成26年に、越生町は令和3年度に市子連が解散しており、いずれの市町も市子連解散後に再結成の要望は出でていない。越生町では、子どもの体験活動が減っているという課題に対し、解散前の市子連の役員等に協力を仰ぎ「梅の里おごせ子どもサポート協議会」を設立した。</p>
委員	<p>浅羽野公民館の文化祭を行った。子ども会の参加がとても多かったように思う。とても活発に賑やかに行われていたと率直に感じた。子ども会の方向性は、すごく難しく、先細りだと感じるが、浅羽野公民館で見た子ども会の皆さんはとても生き生きとしていて、とてもいい状態だと感じた。</p>
議長	<p>浅羽野公民館の2地区子ども会が両方来ていたか。</p>
委員	<p>両方来ていたのかはわからない。文化祭には子ども会の人たちも参加していると聞いた。</p>
委員	<p>浅羽野公民館の文化祭は子どもの参加者が多く、ゲームをやる様子や、折り鶴のようなものを折って模造紙アートにしているようなところも見られ、素晴らしいと思った。</p>
議長	<p>ゲームや折り鶴を主催しているのは誰か。公民館か。</p>
委員	<p>公民館の文化祭に、浅子連、地区の子ども会の人たちが協力していると思う。</p>
事務局（公民館）	<p>子ども会が中心となって行事をやっている。</p>
議長	<p>他の公民館も同様のことが行われているか。</p>
事務局（公民館）	<p>行われていない。 浅羽野地区には長い歴史があると聞いていた。公民館文</p>

	化祭の主催は公民館。その中で、地域性を踏まえて各地域で活動されている団体等にも、公民館の方から声がけをする。
議長 委員	<p>浅羽野公民館の文化祭に行き見た。浅子連は、世代間の繋がりが強い。指導部の最高齢は85歳だそうだが、その方たちがとても協力していて、竹ぼっくりを作ったり、焼杉のようななものに子どもが絵を書いたり何か貼ったりなど、そういうようなものに参加ができる。親子で係をしたり、指導部ジュニアの子もいたりする。</p> <p>文化祭が終わった後には、打ち上げのようなこともする。そうするとジュニアの子も喜んで参加する。子どもたちの喜びがあると、参加の意欲が高まる。そういうこともうまくやっているように感じた。</p>
議長 委員	浅子連は指導部がいて、伝統があり、そういったものが綿々と続いている、事業が行われているということか。
議長 委員	運営委員会が中心だと説明があったが、さらにその中に核になる方がいて、事務等を全部引き受けている。もう長く関わっていて、孫が会員になるような年齢の方だが、地域で子育てをするという考え方で頑張っていると思う。
議長 委員	上下校の見守りは浅羽野地区はとてもたくさん出ていて、法被姿を見かける。どこの地域でも同じように、上下校の見守りはやっているか。
議長 委員	片柳小学校も地域の方の協力を得て、要所に立ってくれたり、場合によっては学校まで来て、地区まで連れて帰ってくれる人もいる。
議長 委員	それはP T Aで組織しているのではなく、地域でやってもらっているということか。
議長 委員	P T Aとは違う。高齢の方が多い。
議長 委員	入西も本当によくやっている。お年寄りで孫が小学生くらいの世代が多い。
議長	それは組織としてやっているのか。

委員	片柳は自治会の区長がリーダーになって声かけし、10人、8人くらいのグループできてくれる。
議長	浅羽野は何十人といる。そういう方たちと子ども会がうまく連携すると少し組織立ってやれる可能性はありそうだが、なかなかそうはいっていないのが現状。歴史と共に活動している浅子連の組織は素晴らしい。
委員	越生町で梅の里越生子どもサポート協議会を作ったとあるが、これは青少年健全育成推進協議会とは違うものか。
事務局	梅の里越生子どもサポート協議会は今回新たに設立したもの。活動内容としては、地域の青少年活動に対して補助金を交付したり、挨拶運動の週間を定めたりしているようだ。なお、越生町青少年育成町民会議は別に組織されている。
委員	浅子連で運営委員の自費や指導部からの寸志を活動に充てていて、市への要望等で補助金が欲しいとあったが、実際どうか。強い要望か。
事務局	今回聞き取りをして話が上がってきたが、普段から要望があったわけではない。
委員	長野県との交流事業は、浅子連が子ども会として行っているのか。素晴らしい。かなり費用がかかるのではないか。
事務局	保険など、その活動に直接係る費用は、会員から徴収しているようだ。募集に係る事務用品などを、役員で負担しているのではないかと思う。
委員	話し合い等では浅羽野公民館を減免で使わせてもらえるのが助かっていると運営委員から聞いた。
事務局	坂戸市立公民館の免除および減額を適用するものの範囲を、各公民館の実情に合わせて聴取し、決裁で定めている。活動内容等を慎重に聞き取った上で免除あるいは減額を判断している。

委員	会員が35名ぐらいで、運営委員や指導部、指導部のジュニア等を入れるとほぼ人数が同じぐらい。かなりの人が協力して活動している。そんな形のものが他にも出してくれればいい。
事務局	<p>(2) 坂戸市及び近隣市の子ども会の状況について (資料に沿って説明)</p> <p>実施した調査で、坂戸市内にも地域での青少年活動が残っていることが分かった。活動に対する支援として、2つの方法を検討している。</p> <p>1つ目は、年度当初に各自治会等に依頼したアンケート結果を公開し報告に代えるとともに、地域の方や保護者が市内の状況に関心を持つ機会とすること。</p> <p>2つ目は、社会教育課で相談業務を開始し、調査で各団体の維持にかかる困難さの要因として共通していた役員の負担感の軽減を図ること。</p> <p>また、社会教育課で行っている既存の青少年関係事業を中心に、参加者の需要や、事業内容を検討し、課題に即した事業へ充実させていくことで、青少年健全育成の一助としたい。</p>
委員	調査やアンケートは子ども会が主だったが、青少年の健全育成という大きな題材になった。どのように考えたらよいか。相談業務の開始については、今までに子ども会から活動の課題についての相談はあったのか。
事務局	<p>直近だと、備品の借用について相談があり、社会教育課が児童センターとの間を取り持つような事例があった。</p> <p>また、今回、子ども会の聞き取り調査をしている中で、相談できなくて行き詰まっているという声もあった。相談の機会を設けることで、不安感や、相談したいという気持ちに多少なりとも応えられると考えている。</p>
委員	<p>市子連がなくなって、子どもの居場所をどうするかと今回の話し合いが始まった。子どもも親世代も、数人で何かしたいと思ったときに場所がない。公民館も個人で借りると減免がない。</p> <p>ちょっと集まれる場所があって、ちょっと子どもたちを見られることが大切。交流センターは皆が入って喋れるテ</p>

	<p>一ブルがあり、ジュースを飲んで話し合いができる、という気軽な場所がある。公民館は土日に使いたければ平日に借りる手続きが必要で、公民館を利用しない。公民館の中に作るのは難しいかもしれないが、空いている部屋を貸し出すようなことはどうか。</p> <p>もっと公民館を利用できるようにしてほしい。地域の中にある公民館は家からも近い。だからこそコミュニティ作りをして相談業務に繋がると思う。</p>
事務局	<p>令和2年度に市子連が解散して、地域での子ども会、子どものあり方、健全性のあり方について、会議で議論してもらった。</p> <p>自治会等に子ども会組織が残っており、その方々が相談する相手がいないことは前回会議でも課題として出された。社会教育課が窓口になり、相談業務、いわゆるコーディネート機能を担っていくべきだと考えている。各部署の各職員等と繋ぎたい。</p> <p>また、フリースペースが地域の拠点にあれば、非常に話し合いがスムーズだと、教育委員会や市も考えている。今後各公民館が交流センター化されるにあたり検討したい。</p> <p>市子連はなくなったけれども、子どもの健全育成のために地域と連携し、市もできるだけ支援をして、青少年の健全育成に繋げていきたい。</p>
議長	<p>交流センターは、いくつか机と椅子があつて自由に動かして使っていいスペースが2部屋ある。小学生が茶と菓子を持ってきて、食べながら楽しそうに過ごす姿をよく見かける。公民館と交流センターは違う活用が図られている。公民館も、これから変わる可能性があり、入西では非常に良い流れになっているので、その方向で進めてほしい。我々委員としては要望を出したいと思う。</p>
委員	<p>各区長を通してアンケートしたが、坂戸市の区長会にはこのことについての報告や協議がなされてない。結果をホームページで公開しても見る人はいない。坂戸市はきちんとした公的な区長会がある。区長会の会議で、課長からアンケートの結果や、市の考えを報告したり、協議したりすることも考えなければいけない。</p> <p>以前、突然に市子連がなくなった。事前に社会教育委員会</p>

	<p>議で、現在の状況や対応の話し合いがなかった。その後何年か経って、新しい協議が始まったことは、非常にプラスだと思う。同時に、区長会を通してお金をかけてアンケートをとった結果が出たのだから、もう一度区長会にも投げかけ、現在の坂戸市の子ども会の状況を資料で示しながら伝えて欲しい。</p> <p>また、入西のフリースペースは交流センター化だからできたのか、それとも公民館から交流センターに変わった時に、たまたま作ったのか。</p>
事務局 委員	<p>各自治会等への報告等については検討したい。</p> <p>また、各公民館により事情が異なるが、現在でもロビーのようなところに、フリースペース的なものがある施設もある。よって、社会教育法でできないということでもない。市として総合振興計画等に基づいて交流センター化を進めているため、その過程で、入西の良いところを取り入れて市内全域に進めていきたい。</p>
	<p>浅子連の関係で、指導部、ジュニア、運営委員会があつて活動しているが、あまり代謝はされていないようだ。今はうまくいっていると思うが、継続性には課題が残る。現在の委員が辞めたら、その次に継続されない。会で次を指導育成すべきというと、それも課題がある。</p>
事務局 委員 事務局	<p>相談業務の中に、職員を派遣して指導機能の育成を図ることなども必要と思う。今の役員の相談には乗るが、今後の何もわからない人に対しての育成指導はない。その辺の継続性の部分の重要性を入れておいた方がいいと思う。</p> <p>交流センター化が進んだ場合、地域づくりの主な拠点として交流センターの方でもそういった機能が出てくるかもしれないが、社会教育分野でも、相談業務を通じて指導、指導育成等、協力できるよう検討したいと思う。</p> <p>相談業務の開始の連絡をアンケート結果とともににお返しするか。</p> <p>各自治会への報告を検討する過程で、相談業務の周知を並行して考えたい。</p>

委員	コーディネートしますということを華々しくアピールをしてほしい。明朝体ではアピールが少ないと思うので、心惹かれるものをお願いする。
委員	相談会の実施は、各公民館で相談会実施という意味か。
事務局	相談会の形は決まっていない。例えば同じ要望が各団体から上がってくるようであれば相談会という形や、地区の繋がりを作るために地区ごとに公民館を借りて行う形もあると思う。
委員	前回の会議で役員が非常に負担を感じ困っているという話から相談業務を設けようという話になった。何のためにやるかを意識し、子ども会を発展させるために、役員の負担を軽減するために相談に乗ってもらいたい。
委員	さっき子どもの居場所という話が挙がったが、12月の広報に子ども食堂の紹介が出てとても反響があったそう。今後も広がると思うが、困窮家庭だけの居場所ではないので、子ども食堂も含めて、地域にいっぱい居場所ができると、繋がりもできると感じる。子ども食堂関係だと子ども支援課だと思うが、関係課との繋がりも密にしてほしい。
議長	会議前に聞いたが、補助金をつけるためには結構ハードルが高いというお話があった。ぜひこれでお金は一切知りませんよっていうことではなく、子ども会に対する補助金について、事務局で2年、3年かかる話だと思うが、検討してもらえるとありがたいと思う。
事務局	これから相談業務等もあるので、各子ども会や自治会等のニーズに合わせて市長部局とよく協議して検討したいと思う。
教育長	アンケートを基にして情報提供をし、相談を受ける。職員が相談に乗るほか、コーディネートして例えば浅子連の人を紹介するなど、具体的なものを示すような形での相談を受ける。1、2年で役員が変わる団体もあり、変わらないからうまくいっている団体もある。その辺も含め、役員の負担感に視点を当て相談業務を進めたい。

	<p>また、提示した青少年全般に対しての事業は、目的を見直し、コロナを機にリセットしてよく考えていく。実効性があり、負担感が少ないものでないと協力してもらえず、子どものためにならない。今回の意見を活かしながら進めていきたい。</p> <p>なお、地域によって課題はまったく違う。本日、校長会があつたが、学校によっても課題が違う。今考えているのは、各学校が進めやすいようなサポートを教育委員会でしていくこと。今日の意見をもとにしながら、サポートができるよう、今できることをやっていくというのが、最初の挨拶と同様の趣旨。</p> <p>貴重な意見に感謝する。</p>
議長	(3) その他 そのほか委員から協議事項はあるか。
委員	なし
司会（事務局）	5 報告事項 (1) 令和4年度少年の主張大会審査結果について 令和4年11月19日土曜日に、入西地域交流センターにて、少年の主張大会を開催した。2,235点の応募の中から選ばれた作文を基に、10名が、自分が日頃感じていることや考えていることをテーマに意見発表を行い、審査員の他、家族と学校関係者が見守った。 なお、高校生・一般の部は応募がなく、今年度は実施しなかった。
事務局	(2) 令和4年度公民館・地域交流センター文化祭の結果について 10月23日日曜日に中央、三芳野、勝呂、大家、浅羽野の公民館5ヶ所で、10月30日日曜日は、北坂戸、城山、千代田の公民館3館および、入西地域交流センターの計4か所で開催した。 昨年度はオンライン開催となったが、今年度は来場型で開催とした。長時間は人と人との接触が多くなるので、可能な限り時間を短縮して開催する、会場は講堂や多目的ホールなどを中心に、可能な限り一方通行の順路にするなど、密集密接を避けて開催した。
事務局（公民館）	

事務局（公民館）	<p>参加団体数は、作品展示48団体、舞台発表47団体の計95団体で、来館者数、来場者数は2,647人。来場者数は、以前に比べ少ないが、会場内は立ち止まって見る方などもあり、舞台発表と作品展示の一体感があったとの意見をもらった。</p> <p>(3) 令和5年度坂戸市二十歳のつどいの結果について 成年年齢が18歳に引き下げるなどの民法の一部を改正する法律が令和4年4月1日から施行されたことから、成人式から二十歳のつどいに名称を変更し初めての式典だった。</p> <p>実施日の1月8日日曜日、当日は天候にも恵まれ、華やかで厳粛のうちに、中学校区ごとに開催した。検温、手指消毒、マスク装着等の基本的な感染対策を徹底し、各会場とも30分以内の式典とした。</p> <p>本市は対象者で構成する実行委員会の形式を取り入れ、招待状の発送準備、二十歳の抱負の発表者選出、前日の会場準備など実行委員と公民館、地域交流センターとが協力して行っている。</p> <p>また、本年も恩師との語らいなどをを行う第2部は感染拡大防止の一環として全会場で中止とし、来賓や恩師の皆様に出席を見合させてもらった。</p> <p>坂戸、桜、浅羽野の中学校区は、駅に近い市の中心部という地域性であり、市外からの転入者や外国人の居住も多いことから、出席率が低くなる傾向にあると考えている。全体の対象者数は、本市に住民登録のある方1,066人と、市外の方で本市の二十歳のつどいに参加を希望した63人を合わせて1,129人、出席者数は721人、出席率は63.9%だった。昨年に比べ、出席者数は57人減り、出席率は1.8%の減となった。</p> <p>(4) 公民館の地域交流センター化にかかる進捗状況について 地域交流センター化庁内検討会議は、関係各課で情報を共有し連携協議を図るもので、これまで7回開催し、課題の抽出とその対応及び各課の合意形成を進めている。</p> <p>公民館推進員への説明は、市民生活課職員により地域交流センター化の概要を説明。</p> <p>坂戸市地域交流センター化協議会は、幅広い見地から意見等を得るために設置されたもので、各種関係団体から選</p>
----------	--

事務局 (スポーツ推進課)	<p>出された市民を中心とする組織。これまで4回開催した。</p> <p>3つのアンケート調査を実施し、現在集計中。入西地域交流センター利用者アンケートは、地域交流センター化の成果の検証を行い今後に活用することを目的に実施。公民館利用者アンケートは、各公民館に250枚、8館合計で2,000枚を配布した。市民アンケートは、20歳以上の方1,000人を無作為に抽出し、実施した。</p> <p>今後は、令和5年3月から5月にかけて、アンケートの調査結果などをもとに、地域交流センター化に関する基本計画原案の作成、住民説明会や市民コメントの実施、その後、12月に条例議案を提案し、令和6年2月に広報、ホームページで周知、4月に地域交流センターへ移行する予定で進めている。</p> <p>地域交流センター化後は、公民館で実施していた事業を引き継ぐこととし、地域とも連携し課題に取り組みながら安全安心な地域作りを目指す。公民館運営審議会は社会教育委員会議に代える。</p> <p>なお、社会教育の適切な実施に関する担保措置として、市長部局で補助執行の規定を定め、社会教育が適切に実施されていることを検証していく。</p> <p>(5) 第21回坂戸市民チャリティマラソン大会結果について</p> <p>平成30年度の第18回大会を最後に、4年ぶりの開催となったマラソン大会を11月20日の日曜日に開催した。</p> <p>石井の市民総合運動公園をスタート、ゴールとしたコース。10キロの最終ランナーがゴールした12時5分47秒に大会終了。当日は、1,551名の申込みに対し1,309名が受付し、84.4%の参加率だった。完走者数は1,258名で、受付者数に対して96.1%の完走率。小雨交じりの天気だったが、気温が高くならなかつたため、救急搬送されるような体調不良を訴える選手もなく、大会を終えることができた。応急処置の足の痛みの外2件は、ゴール後に軽いめまいを訴えた選手で、水分補給と救護テントでの休息で回復した。大会新記録は、3キロ女子小学生の部で2名、5キロ男子50歳代の部で1名が従来の記録を塗り替えた。最高齢者完走賞は、お二方とも坂戸市在住の方だった。</p> <p>今年度は新型コロナウイルス感染症の対策を講じた運営</p>
------------------	--

事務局 副委員長	<p>を行い、従来の大会と内容を変更したが、来年度は少しでも従来の大会に近づけるよう計画したい。</p> <p>6 その他 (1) 第4回坂戸市社会教育委員会議の予定について 次回は令和5年3月17日金曜日、午後2時から坂戸市役所301・302会議室にて予定している。開催通知は別途送付するが、あらかじめ日程を承知してほしい。</p> <p>7 閉会 長時間にわたる慎重審議に感謝する。今年も何回か会議が開催されると思うので、よろしくお願ひする。 コロナウイルスの新しい株で感染力が高いものがまた流行ると聞くので、どうぞご自愛し、活躍してほしい。 では、第3回坂戸市社会教育委員会を終了する。</p>
-----------------	---